

ミカンコミバエとは

ミカンコミバエは、成虫の体長が約7mmの小型のハエで、果樹類や野菜類などの果実に産卵し、孵化した幼虫が果実を食害する重要害虫である。

1．主な寄主作物

- ・寄種範囲が広く、果樹類ではカンキツ類を中心に、ブドウ、ナシ、モモ、スモモ、カキ、ビワ等、野菜類ではキュウリ、ナス、インゲンマメ等。
- ・熟した果実を好む。

2．被害

- ・雌成虫が果実に産卵し、果実内で幼虫の食害が進行すると果実が腐敗・落果する。
- ・繁殖力が高いため、定着すると急速に被害が拡大し、ひどい場合には収穫皆無となる。

3．世界における発生

- ・中華人民共和国、東南アジア、ハワイ等

4．防疫措置

- ・植物防疫法において検疫有害動植物に指定されている。
- ・昭和58年以降、国と各都道府県で生産園地及び主要な空港や港にトラップを設置し、侵入警戒調査を行っている。
- ・日本では根絶されているが、台風等の強風に乗って発生地域等からの侵入が確認されており、侵入が確認された場合は、直ちに防除対策を実施している。



ミカンコミバエ成虫



ミカンコミバエ幼虫



ミカンコミバエ卵

農林水産省植物防疫所ホームページより引用